

【令和8年度までの利用見込量】個別支援件数

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実施回数 (人)	155	160	165

② 口腔機能向上介護予防普及啓発事業（お口元気アップ講座）

現状

生涯を通じて自分の歯で食べる楽しみやコミュニケーションの充実のため、高齢者の口腔機能及び健康の保持増進に資する知識を普及し、自らが口腔機能の低下状況を知り日常生活において自己管理が推進されるよう支援に努めています。

【事業実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
実施箇所数 (箇所)	85	115	110
実施回数 (回)	85	115	115
延参加者数 (人)	631	881	900

施策の方向

運動指導員派遣事業等の介護予防事業との連携した実施は継続し、新規サロンへの更なる働きかけを行うとともに、介護予防事業所等、広く事業を利用してもらえる体制づくりを推進します。

【令和8年度までの利用見込量】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実施箇所数 (箇所)	120	130	130
実施回数 (回)	120	130	130
延参加者数 (人)	1,000	1,100	1,100

③ 口腔出前講座（オーラルフレイル予防出前講座）

オーラルフレイル予防を中心に、高齢者の口腔の自己管理についての知識普及を目的に、公民館事業や集いの場などにおいて集団を対象に普及啓発を推進します。

4. 認知症施策の総合的な推進

(1) 認知症の正しい理解と早期発見・早期対応

① 認知症サポーター養成講座等の開催・認知症ケアパスの普及

現状

認知症になっても、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、地域住民が認知症に対して正しく理解することが大切です。

このため、本市では、老人クラブや地域のサロン、企業、学校等、広く市民を対象に認知症サポーター養成講座を開催しています。また、認知症講演会やアルツハイマー月間(9月)の取組においても、広く市民に認知症への理解を促進し、認知症の人やその家族が地域で安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

また、発症予防から人生の最終段階まで、状態に応じたケアの流れを記載した「認知症ケアパス」(認知症相談ガイドブック)を相談対応時に活用していますが、令和2年度更に改訂を行い、認知症ケアパスの普及・活用に努め、認知症を正しく理解し、より良いケアにつなげられるよう取り組んでいます。

【事業実績】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
キャラバン・メイト数(人)		145	165	169
認知症 サポーター 養成講座	開催回数(回)	4	8	10
	受講者数(人)	68	166	300
	サポーター数(人)	10,077	10,243	10,543
認知症 講演会	開催回数(回)	0	1	1
	受講者数(人)	0	55	65

施策の方向

市民向けの認知症講演会や各団体、教育関係への認知症サポーター養成講座開催への働きかけ等あらゆる機会を通じ、「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」に基づき、認知症の人や家族の視点を重視しながら事業の取組を進めます。また、認知症についての相談窓口の周知をより丁寧に行い、早期の段階から相談・対応ができる体制を整えるとともに、「認知症ケアパス」がより本人の視点を重視したものになるよう、本人の思いを聞きながら見直しに向けた検討を行ないます。

65歳未満で発症する「若年性認知症」については、若年特有の課題を抱えるケースが多いことから、労働部門や京都府の若年性認知症支援チームとも連携しながら、ピアサポート事業など必要な支援・サービスの周知啓発・相談対応に努めていきます。

【令和8年度までの利用見込量】

		令和6年度	令和7年度	令和8年度
キャラバン・メイト数（人）		173	177	181
認知症 サポーター 養成講座	開催回数（回）	13	15	17
	受講者数（人）	260	300	340
	サポーター数（人）	10,803	11,103	11,443
認知症 講演会	開催回数（回）	1	1	1
	受講者数（人）	100	100	100

② 認知症初期集中支援チーム派遣事業

現状

病気への偏見や悪いイメージにより受診が遅れたり、診断を受けても適切なケアにつながらず、症状が悪化したり、家族関係が崩れるケースが多いことから、認知症の症状により日常生活に支障が出始めた初期の段階で、本人や家族の不安に対応し、適切なケアにつなげられるような支援体制が求められています。

認知症の心配がある人の自宅に、精神保健福祉士や薬剤師、作業療法士等の専門家からなるチームが訪問し、専門病院への紹介や対応方法などのアドバイスを行っています。令和3年度に作成した、認知症初期集中支援チームパンフレットを活用し、医療機関や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等との連携強化に努めています。

【事業実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
訪問件数（人）	12	25	27
支援方針検討会議（回）	13	13	11

※訪問件数（人）は、相談件数（新規・継続・モニタリング）を計上

施策の方向

今後、認知症の方は益々増加すると推測されることから、対象者の把握に努めるとともに、早期発見・早期対応の重要性を周知し、認知症の病気の理解促進を図ります。

また、家族等の理解不足から生じる高齢者虐待を予防するためにも、チームによる支援を活用することを広く啓発していきます。

【令和 8 年度までの利用見込量】

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
訪問件数 (人)	30	33	36
支援方針検討会議 (回)	13	13	13

(2) 認知症予防の取組の推進

① 認知症予防プログラム実践事業

現状

高齢者が、有酸素運動や記憶力・計画力・注意力を積極的に使うことを習慣づけ、認知症の発症を予防するプログラムの実践を行っており、令和 4 年度からは LINE プログラムを追加しました。具体的には、認知症を発症していない高齢者が、小グループで定期的に集まり、LINE やウォーキング、パソコンによるミニコミ誌づくりなどの予防プログラムを 3 か月間行い、終了後は、認知症を予防する生活習慣の実践を、自主グループで継続しています。

また、これらのグループの支援を、認知症予防に係る研修を受講した市民（認知症予防ファシリテーター）が行っています。

【事業実績】

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度 (見込み)
参加実人数 (人)	0	22	26
参加延人数 (人)	0	232	275
実施箇所数 (数)	0	2	2
自主グループ数	26	25	27

施策の方向

グループの支援を行う認知症予防ファシリテーターを養成し、認知症予防のための生活習慣継続の支援に努め、自主化したグループが継続して活動できるように支援します。と同時に、更なる認知症予防の取組についても模索していきます。

【令和 8 年度までの利用見込量】

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度
参加実人数 (人)	25	25	25
参加延人数 (人)	300	300	300
実施箇所数 (数)	3	3	3
自主グループ数	29	31	33

(3) 認知症ケアの向上

① 初期認知症対応型カフェ推進事業

現状

認知症になっても、安心して地域で暮らし続けることができるよう、病院や介護施設、地域において、本人や家族、地域の人や認知症に関心のある人が気軽に集え、悩みを話したり、楽しい活動を行う「認知症カフェ」を開設しています。

「認知症カフェ」では、本人同士が主になって語り合う「本人ミーティング」を実施し、本人本位のケアの実践に努めています。

【事業実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
実施箇所 (箇所)	5	5	5
実施回数 (回)	194	192	200
利用実人数 (人)	68	69	90
利用延人数 (人)	1,663	1,720	2,000

※利用実人数(本人+家族)、利用延人数(本人+家族+その他)

施策の方向

気軽に足を運んでもらえる場になるよう、興味を引く内容の工夫や初期の認知症の対象者が把握しやすい専門医療機関との連携強化に努めます。また、地域や認知症に関心のある人が、更に足を運んでもらえるよう周知啓発にも努めます。

【令和8年度までの利用見込量】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
実施箇所 (箇所)	6	6	6
実施回数 (回)	248	248	248
利用実人数 (人)	100	100	100
利用延人数 (人)	2,480	2,480	2,480

② チームオレンジの設置

施策の方向

「チームオレンジ」とは、「認知症と思われる初期の段階から、心理面・生活面の支援として、認知症の方の悩みや家族の身近な生活支援ニーズ等と、ステップアップ講座を受講した認知症サポーターを中心とした支援者をつなぐ仕組み」のことであり、「共生と予防」を基本理念とした認知症施策推進大綱の中で設置が位置付けられ

ています。チームオレンジを通して、認知症当事者も地域を支える一員として活躍し、社会参加することを後押しするとともに、認知症サポーターの更なる活躍の場を整備し、支え合いの仕組みづくりの構築を図ります。そのために、まずはチームオレンジの一員となるサポーターを養成するためのステップアップ講座を開催し、チームオレンジ設置に向けて取組を進めます。

【令和8年度までの設置数】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
チームオレンジ数	0	1	2

③ 認知症医療連携実務担当者会議

現状

認知症の本人や家族に関わる保健・医療・福祉・介護の関係者が集まり、意見交換や情報交換、事例検討を通じて、連携を強化し、認知症施策の現状や課題を検討し、連携の推進を図ることを目的として実施しています。

【事業実績】

	令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
開催回数 (回)	6	7	7
参加人数 (人)	214	169	180

*開催回数・参加人数：関係者が参加する実務担当者会議と認知症疾患医療連携協議会、認知症初期集中支援チーム検討会議を含む

施策の方向

今後も、事例検討や情報交換を通じて、認知症に関する様々な課題の対応策を検討し、認知症になっても住み慣れた地域で生活できる体制づくりに努めます。また、本人を起点にした取組・活動の推進に向けて、関係者で協議する場として活用していきます。

【令和8年度までの利用見込量】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
開催回数 (回)	7	7	7
参加人数 (人)	185	190	195

④ 認知症高齢者等徘徊対策事業

現状

行方不明発生時、警察が早期に捜索活動が行えるように、行方不明になる可能性のある高齢者の情報を事前に市と警察が共有する「事前登録制度」と「認知症高齢者等位置検索サービス（GPS）利用支援事業」を実施しています。令和4年度には登録者の一斉更新を実施し、登録者名簿の整理を行いました。

また、行方不明が発生した際は、市の「まいづるメール配信サービス」を活用し、介護サービス事業所や地域住民に広く情報提供を行っています。

【事業実績】

		令和3年度	令和4年度	令和5年度 (見込み)
メール配信回数 (回)		5	3	3
事前登録	年度末登録者数 (人)	154	85	100
	新規登録者数 (人)	31	36	40
GPS利用支援 (人)		0	1	1

施策の方向

「事前登録制度」や「GPS利用支援事業」について周知・啓発し、利用者の増加を図るとともに、認知症の人や家族を地域で見守る体制の構築に努めます。また、利用者がより活用しやすいものになるよう、事前登録制度におけるグッズ内容の見直しに向けた検討を行います。

【令和8年度までの利用見込量】

	令和6年度	令和7年度	令和8年度
新規事前登録者数 (人)	40	40	40
GPS利用支援 (人)	1	1	1